

伊達綱宗（1640～1710）は 1660 年に、仙台藩の領主、瑞巖寺の創始者である伊達政宗（1567-1636）の妻で、彼の祖母にあたる愛姫（1568～1653 年）のためにこの豪華な霊廟を建てた。陽徳院とは愛姫に与えられた戒名である。彼女の夫の墓は仙台にあるが、伝説によると愛姫は松島の聖地の近くに遺骨を納めてもらうよう依頼し、より早く天国に到達し、正宗と再会できるように願ったと言われている。霊廟は黒い漆で塗装されており、金具とカラフルに描かれた細目とのコントラストが美しい。ドアに描かれたぶどうは霊廟が建てられた当時よく女性と関連づけられていた。構造は 2006 年に始まり 3 年以上かけて復元された。